

今月の
いいね!

中秋の名月とダンゴウオ



ダンゴウオ

【名前】

ダンゴウオ（スズキ目ダンゴウオ科）

【すむ場所】

青森県から三重県。沿岸の岩礁域。

【大きさ】

全長 2cm

【当館で見られる場所】

駿河湾の生きもの

【特ちょう】

名前のとおり団子のような姿をした魚です。体色は緑や赤など個体により異なります。また、おなかには、腹びれが変化してできた吸盤があり、物に吸い付くことができます。

【担当学芸員から一言】

今年の十五夜は10月1日です。月見団子だけではなく、ぜひダンゴウオを見に来てください。(Y.I)

Q&A

疑問にお答えします：水槽

館内にいらしたお客様からよくある質問に学芸員がお答えします。

Q.生き物を展示する水槽はいくつありますか？

現在、展示水槽は大小あわせて77槽あります。

Q.一番大きな「海洋水槽」にはどれくらいの水が入っていますか？

560,000リットルの海水が入っています。

Q.水槽のガラスはどんなものですか？

主にアクリルガラスで、海洋水槽は厚さが15.6cmもあります。

結露を防ぐために二重ガラスを使用した水槽もあります。

Q.水槽の水温は何度ぐらいですか？

生物に合わせて約4℃から27℃に設定しています。(K.Y)



アクリルガラス製の円柱水槽



ハマゴウの花



流れ着いたヤシの実

当館のある三保半島の海岸沿いには、世界文化遺産にも登録された「三保の松原」があります。その足元にも様々な植物が存在しています。その中には海浜植物と呼ばれる海岸特有の植物もみられます。砂浜は植物にとって厳しい環境ですが、強い風や日差し、海水に耐性を持つことで海浜植物は砂浜でも育つことができます。

三保の海岸では、十数種類の海浜植物をみることができますが、7月から9月にかけては青紫色の花を咲かせるハマゴウを楽しむことができます。そして、花が終わるとその下にはたくさんの種が落ちていきます。夏になると春に花を咲かせていたハマボウフウやハマヒルガオ、コウボウムギなどの種も砂浜のあちらこちらで見ることができます。こうした様々な種の中には旅をするものも存在します。他の植物と違い海浜植物の種は、海水に浸かっているうちに発芽能力を失ってしまうことはありません。そのため、種は波によって遠くの海岸まで運ばれ、漂着した先で花を咲かせることがあります。ココナッツでおなじみココヤシの実も時折海流にのって日本にも流れ着くことがあります。

砂浜を歩く際はその足元にも注目してみてください。厳しい環境の中でもたくましく生きる海浜植物をみることができます。その中で旅をしてきた種と出会うこともあるかもしれません。(Y.O)

駿河湾深く泳ぐアカボウクジラ

前号でお知らせしました当館敷地内に埋めたアカボウクジラの骨格を2020年8月17日に掘り出しました。今後は、油抜きや漂白などの作業を行う予定です。そこで、今回はアカボウクジラについてご紹介します。

アカボウクジラはクジラの仲間でアカボウクジラ属に属する中型のクジラです。成体の体長は7mほどになります。他のクジラ類と比べ、胸ビレがとても小さいことが特ちょうです。素早く泳ぐ時や深くまで潜る時に胸ビレを体にあるへこみに収めることができ、体の周りの水の流れを邪魔しないようになっています。また、北極や南極以外の広い範囲に生息しており、深海性のイカや魚などをエサとすることから深い海で生活しています。また、クジラ類の中でも最も深く潜ることのできるクジラで、3,000m近くまで潜ったという記録があります。時間にして2時間以上も息を止めていたことになります。

水深が深い駿河湾は、このアカボウクジラが生活するには良い場所と考えられています。また駿河湾は太平洋側に向けて深い水深で広がっているため、行き来もしやすいのです。

東海大学海洋学部の調査でも駿河湾を泳ぐアカボウクジラが撮影されています。しかし、それぞれどのクジラかを見分けること(個体識別)が難しいので、どれくらいの数いるかはまだ分かっていません。日本一深い駿河湾、私たちの身近な海にこのようなクジラが暮らしているのです。(S.T)

アカボウクジラ
(イラスト：河合 晴義)駿河湾を泳ぐアカボウクジラ
(写真提供：東海大学海洋学部海洋生物学科 大泉研究室)